

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和5年度第1回相模原市文化財保存活用地域計画作成検討協議会		
事務局 (担当課)		文化財保護課 電話042-769-8371 (直通)		
開催日時		令和5年10月25日(水) 10時00分から12時00分まで		
開催場所		相模原市役所第2別館3階 第3委員会室		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他	2人(コンサルタント)		
	事務局	5人(生涯学習部長、文化財保護課長、他3人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 あいさつ 2 正・副会長の選出について 3 議 題 (1) 相模原市文化財保存活用地域計画の骨子について (2) その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。(○委員発言 ●事務局発言)

1 あいさつ

生涯学習部長より挨拶を行った。

2 会長・副会長の選出

会長に内川委員、副会長に吉野委員が決定した。

3 議 題

(1) 相模原市文化財保存活用地域計画の骨子について

事務局から資料に基づき、説明を行った。

◆以下、質問及び意見

「1. 文化財保護行政の沿革と動向」及び

「2. 文化財保存活用地域計画の概要」について

○令和8年から計画実行となると、評価基準を決めて検証しながらやっていく、また、市民や学識経験者が参加した中で、計画がどう運用されているのかを見ていく必要があると思う。

●検証して評価して次につなげていく、いわゆるPCDAサイクルについては、最後の構成の部分で取り上げさせていただく。

○相模原市の広い地域の歴史文化を取りまとめるような計画なので、地域の多様な文化財に目を配ることを考えれば、3年間での策定は厳しいかもしれないが、我々としても可能な範囲で事務局に協力しようと思っている。

○市の文化財保護課が8月から市の文化財の「市宝展」を始めている。拝見していて素晴らしい内容で、これが活用の一つの方法、形だと思っている。また、相模原市の四つの国指定の遺跡があるので、これらを早く市民の方に知らしめる計画を立てていただきたい。

「3. 相模原市の文化財の概要」について

○付け加えるとすれば勝坂遺跡のそばにある中村家住宅である。なまこ壁の擬洋風建築、和洋折衷の建物で、幕末開港頃の横浜近辺で流行した。横浜で学んだ大工さんが恐らく、何らかの理由であの場所に建てたと思われる。横浜には震災や空襲もあって現物は全く残っておらず、相模原にぽつんとあることから、周囲との

文化的なつながりを考えることは難しいのかもしれないが、建築史上においても貴重な国の登録有形文化財ということで、保存の取組も盛り込んでいただければ面白いと思う。

「4. 文化財に係る市民アンケート調査結果」

「5. 相模原市の行政計画と文化財の保存活用」

「6. 文化財の保存活用を通じた将来像の視点」

「7. 相模原市文化財保存活用地域計画の骨子（案）」及び全体について

○14、15 ページに関連して、小原宿の活性化推進会議等がいい方向へ流れているという話があったが、ウェルビーイングの中の課題にもあるとおおり、まさに過疎化、少子高齢化、人口減少によって、将来がどうなっていくか危惧しているところである。

相模湖が人口が多いときで1万1千人ぐらいだったものが、現在7千から6千人という段階へ来ていて、市役所の総合事務所の方にも聞いたところ令和50年には千六百何人だと、ショックを受けながらも、まだ先は長いから何とかできるのかなと感じている。

小原の郷についても、活性化推進会議の分科会が市と一体となって取り組んでおり、感謝申し上げる。

14 ページ1 番上段の、内心の自由の保障と同調圧力という、この同調圧力は、あえてここに入っている理由がよく分からなかった。

●説明が不足していた。こうでなければいけないみたいなものを他の人に強制するのは同調圧力と言われている。教育振興基本計画の中でも、例えば教育の中で、協調性は大事だが無理強いさせてしまうのはよくないことで、そこを注意しようというのが、この同調圧力の解放という意味合いである。

○同調的圧力は日本文化において既にマイナスイメージであり、協調的要素の中で、同調的な圧力を乗り越えなくてはならないから当然のこととして、ここではあえて必要ないと思い質問をした。

●分かりました。ありがとうございます。

○次回以降具体的な案が示されると思うが、一つ注意していただきたいこととして、これは文化庁が他の市町村にも指摘していたことで、実施計画の構成案の第3章で自分たちの歴史的変遷とか、文化財の詳細な説明などに熱を入れて、分量が多くなってしまう。文化財の学芸員や専門職員としては、当然力を入れたい部分なのだが、地域計画の肝は、4章、5章、6章なので、3章が分厚くなってしまふと全体のバランスがおかしくなるので、ほどほどでお願いしたい。

○市民アンケート調査を拝見して、ちょっとがっかりしたが、田名向原遺跡を知っ

ているという回答は非常に少ない。11月3日にはハテナ館まつりを行う。もし時間があればお越しいただきたいと思う。

○相模原市の文化財保存活動に関連し、他の市町村の区域も含め、至る所に文化財を取り巻く環境等はあると思うので、そのあたりもしっかり配慮していただければと思う。

●津久井城もそうであるし、例えば甲州道中、小原宿の本陣も、その本陣だけではなくて甲州道中というつながりの中で、関連する自治体相互の連携も、当然取り入れる必要があると思う。

(2) その他

次回日程等について事務局から説明を行った。

以 上

令和5年度第1回相模原市文化財保存活用地域計画作成検討協議会
委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	馬場 憲一	法政大学名誉教授		出席
2	内川 隆志	國學院大學教授	会長	欠席
3	大貫 英明	相模原市文化財研究協議会 会長		出席
4	篠崎 重雄	相模原市民俗芸能保存協会 会長		出席
5	曾根 勝	特定非営利活動法人 建築文化研究会 副理事長		出席
6	飯田 覚隆	宗教法人 無量光寺 代表役員		欠席
7	野口 浩史	公益財団法人 神奈川県公園協会		出席
8	小林 幸治	小原宿活性化推進会議 会長		出席
9	吉野 賢治	公益社団法人 相模原市観光協会 代表理事	副会長	出席
10	永山 一雄	公募市民		出席
11	横山 淑子	公募市民		出席
12	谷口 肇	神奈川県教育委員会文化遺産課 副課長		出席
13	秋山 幸也	相模原市立博物館 総括副主幹 (学芸班担当)		欠席
14	藤原 啓	相模原市学校教育課 (指導主事)		出席
15	市橋 剛輝	相模原市観光・シティプロモーション課 参事 (兼) 課長		欠席
16	森 英紀	相模原市建築政策課 課長		出席
17	笠原 正則	相模原市文化振興課 参事 (兼) 課長		出席